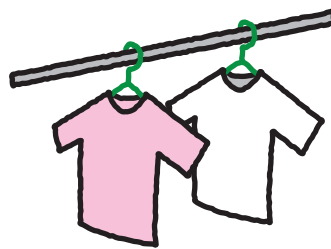


つぶやき



「特別支援学級」って何？

群馬県教職員組合 濱田 光恵

昨年度は再任用2年目にして、初の特別支援学級担任となった。勤務している小学校で支援学級が学級増になったからである。学校長が言うには、「濱田さんしかいねえよ」。2学級あった支援学級は両方とも担任が決まっていたが、増えた学級の担任希望は他にだれもいないと言うのである。

特別支援学級はだいぶ不遇である。例を挙げると、週1時間「生活单元」という授業を組まなくてはならないが、勤務校では普通学級の担任が時間割を先に組んでしまう。すると、クラスの在籍児童は6人だが、たった週1時間をそろえることさえ難しくなる。また、クラスには支援員さんが1人いるが、子ども6人を2人で見るのはなかなか大変である。全員クラスにいるならまだいいが、クラスに残る子、支援員さんについてもらい協力学級に行く子、自分だけで協力学級に行く子、の3つに分かれてしまう。高学年の子もいるので、協力学級での学習は難しくて気の毒な状態だ。

特別支援学級に何年も関わっている先生たちは、今更何を言っているのか

と思うだろう。こんなことも知らずに長年過ごしてきたのは、本当に驚きだった。特別支援教育は軽く見られている、というのが1年を終えての私の本音である。子どもたちのために、もっと主張していかなければならない。やることはまだたくさんあると感じている。

もうひとつ強く思ったのは、特別支援教育は教育の原点であるということだ。一つひとつステップを積み上げないと理解してくれない子どもたちを相手に、40年もキャリアがあるのに、どうしたらいいのか、本当にこのやり方でいいのか、結構悩んだ。今までの指導法が通じない部分もあったし、いろいろなタイプの子どもがいるので無理強い禁物だった。保護者の方々やその子の担当医師にも相談し、たくさん助けていただいた。

最後に、特別支援学級担任をぜひお勧めしたい。教育の原点に関わることは、これからの先生たちにもきっと新たな世界をもたらすだろう。普通学級では見えないことが見えてくるのではないかと思っている。